

## 23/12月学習会の案内 第58回「資本論を読む会」

日時12月25日(月曜日)  
午後6時30分Zoom開催

### DAS KAPITAL

今回は、「第23章第2節 蓄積とそれに伴う集積との進行中における可変資本部分の相対的減少」  
[岩波文庫(三)p193-p205]。

11月の「資本論を読む会」は9人でやりました(恒例メンバーの欠席あり)。いよいよ有名な「資本主義的蓄積の一般的法則」という名の付いた章に入りましたが、今回のレポーターは林野のsakaオヤジさんでした。要領よくまとめたレポートでした。ありがとうございます。皆さん、「章名のプレッシャー」にめげずに果敢な論争を行いました。

まず冒頭から、「資本の価値組成と資本の技術的組成」について、「技術的組成の変化が価値組成に反映する」云々から、第1節の題名は「資本組成の不変な場合における蓄積…」とあるのに“変化する”のはおかしい—という議論から、少し白熱!!要するに「資本の蓄積が変化するのか資本の組成が変化するのか」ということなのですが、ムニヤムニヤと結論は曖昧に?

「資本の蓄積と労働力・労働者数の増加と、労働賃金の騰貴」(p179)、「労働価格の低下を伴う労働賃金の騰貴」(p189)というようなテーマも議論になりました。申し訳ありませんが、どういふ議論になったのか、詳しく説明することはできません。チョット覚えていないので…。何か、現代の賃金闘争・論を想起させる新鮮な書き方だ—という一致した印象は残っていますが…。

今回は「第2節 蓄積とそれに伴う集積との進行中における可変資本部分の相対的減少」というまた長い題名ですが、全員意欲的に勉強したいと思います。更に次回の「読む会」開催日は、何と!12月25日(月)のクリスマスです。レポーターはtakちゃん。

終わってからの懇親会は6人で結構遅くまで色々と談論しました。酒は進みましたが、余り白熱議論にはしなかったと思います。クリスマスプレゼント「新規参加歓迎」しますよ!

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから -Sakaオヤジ

### 第23章 資本主義的蓄積の一般的法則

#### 第1節 資本組成の不変なばあいにおける蓄積に伴う労働力需要の増加

マルクスは冒頭、本章の課題を、資本の蓄積すなわち資本の増大が労働者階級の運命に及ぼす影響を研究することであると、「資本の構成」の概念を明らかにし、「資本の蓄積はプロレタリアートの増殖である」という重要な命題を提示しています。

そして「労働者にとって有利な条件のもとでは、賃金が上昇し、その結果、労働者の資本への従属関係は「耐えられないこともない」形態をまとうことになるけれども、このことは賃労働者の従属関係や搾取の廃止を意味しない。なぜなら剰余価値の生産こそ資本主義的生産様式の絶対的法則であるからである。また資本蓄積と賃金率との関係は、支払を受けない、資本に転化する労働と、追加資本の運動に必要な追加労働との関係にほかならない。だからそれは、けっして一方には資本の大きさ、他方には労働者人口、という二つの互いに独立な量の関係ではなくて、むしろ結局はただ同じ労働者人口の不払労働と支払労働との関係でしかないのである」と述べています。

資本論第1巻は  
もう少しだ  
頑張ろう  
ぜ!!

